

2020年12月9日

盛岡市議会議長

遠藤政幸 様

請願者

盛岡市本町通1丁目10-35

少人数学級を実現する岩手の会

代表 田代高章



「子ども一人ひとりを大切にし、感染症にも強い少人数学級」
を速やかに実現することを求める請願書

紹介議員

竹内 裕久

中村 亨

神部 伸也

村上 貢一

鈴木 俊祐



請願第 7 号

「子ども一人ひとりを大切にし、感染症にも強い少人数学級」 を速やかに実現することを求める請願書

〔請願趣旨〕

一人ひとりの子どもを大切にすゆきとどいた教育を進めるために現行40人学級より少ない少人数学級の実現は喫緊の課題です。また、新型コロナウイルス感染防止対策として学校の教室が密集状態を緩和するうえでも必要なことです。少人数学級を速やかに実現できるよう国が必要な措置をとるよう要望して下さい。

〔請願理由〕

学校は一人一人の子どもとじっくり向き合い、悩みに耳を傾け、個別の指導をすることが大切であり、現場からは40人学級でなく少人数学級実現の要望が強く出されています。岩手県内でも約30年前に40人学級が実現した直後から30人以下の少人数学級の実現を求める運動が続けられ、長年の努力で最近ようやく小・中学校では35人以下学級になっています。しかし、国の基準が40人学級のため教員配置など多くの困難を抱えておりますので、国の制度とし少人数学級を実現することが関係者から強く期待されています。

今、新型コロナウイルス感染防止対策で、学校教育の現場でも身体的距離の確保が課題になっていますが、40人学級の教室では子どものたちの身体的距離がとれず、「密集状態」です。これを避けるためには少人数学級にする必要性については、文科省の「学校の新しい生活様式」（2020年8月版）に指摘されているとおりです。

また、ICT教育環境の整備と併せて少人数学級実現の早期実現を求める声が強まっています。

7月2日には、全国知事会・全国市長会・全国町村会は連名で政府に「少人数編成を可能とする教員の確保」を要望しています。また、7月17日に閣議決定された「骨太方針2020」でも「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的整備」の検討を提起しています。9月24日には自民党の教育再生実行本部も「30人学級の推進」を決議しています。

来年度予算編成にあたって、少人数学級に踏み出す予算措置を実現することが、教育関係者の強い要望になっています。こうした状況を踏まえて、国に対して貴議会として意見書を提出していただくよう請願します。

〔請願内容〕

国に対して「子ども一人一人を大切にし、感染症にも強い小学校、中学校、高校の少人数学級」を速やかに実現することを求める意見書を提出して下さい。

<意見書提出先>

内閣総理大臣 菅 義偉様
財務大臣 麻生太郎様
文部科学大臣 萩生田光一様